

日植防協発 第158号  
2019年6月26日

関 係 各 位

一般社団法人 日本植物防疫協会  
理事長 藤 田 俊 一  
(公 印 省 略)

シンポジウム「植物防疫の新たな展開の「その後」をフォローする」  
の ご 案 内

日頃より当協会の事業に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当協会では、この度標記シンポジウムを別紙要領により開催することと致しました。

ここ数年にわたり、薬剤抵抗性対策、今後の薬剤施用法、農薬登録制度の刷新と影響、スマート農業の展開等、これから大きく動きだそうとする重要なテーマを相次いで取り上げてシンポジウムを開催してまいりました。これらはいずれも今後の植物防疫の方向性に大きく影響することから、その後の動向が注目されております。そこで本シンポジウムでは、これらの中から幾つかの課題をあらためて取り上げ、その後の動きをフォローし、今後の展開方向と課題を考えて参ります。

つきましては、ふるってご参加いただきますようご案内申し上げます。

追って、参加を希望されます場合には別添申込書により期日までに当方にお申し込み下さい。

※この開催案内は当協会ホームページ (<http://www.jppa.or.jp/>) からダウンロードできます。

# シンポジウム「植物防疫の新たな展開の「その後」をフォローする」

## 開催要領

1. 日 時：2019年9月20日（金） 10:00～17:30
2. 場 所：日本教育会館「一ツ橋ホール」  
東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 TEL 03 (3230) 2831
3. 主 催：一般社団法人 日本植物防疫協会
4. 趣 旨：当協会ではここ数年にわたり、薬剤抵抗性対策、今後の薬剤施用法、農薬登録制度の刷新と影響、スマート農業の展開等、これから大きく動きだそうとする重要なテーマを相次いで取り上げてシンポジウムを開催してきた。これらはいずれも今後の植物防疫の方向性に大きく影響することから、その後の動向が注目されている。そこで本シンポジウムでは、これらの中から幾つかの課題をあらためて取り上げ、その後の動きをフォローし、今後の展開方向と課題を考える。
5. 参集範囲：国及び都道府県の行政・試験研究機関・普及指導機関、独立行政法人、大学、JA、農薬企業、防除機企業および関係団体（定員 800 名）
6. 参加費：無 料
7. プログラム

### 開会

#### 第1部 薬剤抵抗性対策をめぐるその後

- ・国内外の殺菌剤耐性菌管理の現状と対策

JFRAC 田 辺 憲太郎 氏

- ・殺虫剤抵抗性管理：農業生産現場への普及の取組み

日本曹達株式会社 山 本 敦 司 氏

- ・総括質疑

#### －昼食休憩－

#### 第2部 水稻高密度育苗技術をめぐるその後

- ・密苗移植栽培技術の普及状況

ヤンマーアグリ株式会社 澤 本 和 徳 氏

- ・水稻高密度育苗における箱粒剤の適応性

一般社団法人日本植物防疫協会 舟 木 勇 樹 氏

- ・総括質疑

#### －休憩－

#### 第3部 新たな農薬登録制度をめぐるその後

- ・ドローンによる薬剤散布の可能性

一般社団法人農林水産航空協会 中 島 満 氏

- ・農薬使用者及びミツバチ安全対策をめぐる国内外の現状と課題

日本農薬株式会社 元 場 一 彦 氏

- ・総括質疑

### 閉会



シンポジウム「植物防疫の新たな展開の「その後」をフォローする」  
参加申込書

8月30日〆切 (期日前でも定員になり次第締め切らせていただきます。)

■一般社団法人日本植物防疫協会 支援事業部あて

FAX 03-5980-6753

所属機関名	ご氏名	備考

必ずしも所属機関や県単位でまとめてお申し込みいただく必要はありません。  
万一定員超過により申込をお受けできない場合は折り返しご連絡致します。

申し込み代表者

所 属

氏 名

TEL